



教員が研究の楽しさを語る

第190回(5/22)佐々木綾子先生推薦

ブックガイド



※掲載されている本はL棟2階 あかりんアワーのコーナーに配架されます。

Book1

国際移動と親密圏：ケア・結婚・セックス(変容する親密圏/公共圏13)

著者：安里和晃編

出版：京都大学学術出版会, 2018.1

コメント：本書では、特にアジア女性に焦点をあて、介護労働や「結婚」に組み込まれた再生産労働、性風俗産業への従事など親密性の労働をめぐる国際移動が、受け入れ諸国の入国管理政策や社会統合政策上の「ガラスの天井」によって、つまり、不可視化された枠組みに規定されながら「静かに」増大している様子について、検討しています。親密性の労働がすでに親密圏内部だけでは完結しなくなっている社会において、性役割分業、国際分業体制、限定的なシティズンシップ、社会統合政策と社会階層移動など、今後も様々な点から「人の国際移動」を検討する必要性があることについて提起する1冊です。



Book2

サバイバー：池袋の路上から生還した人身取引被害者

著者：マルセーラ・ロアイサ著；常盤未央子, 岩崎由美子 訳

出版：ころから, 2016.8

コメント：本書は2000年代に人身取引の被害に遭い、東京・池袋で売春を強要された経験をもつコロンビア女性が実名で発表した手記で、コロンビアで刊行された『ヤクザに囚われた女1——人身取引被害者の物語』の日本語翻訳版です。私たちの身近な場所に潜む搾取や暴力について考えさせられるのと同時に、過酷な状況を経て「サバイバー」として活動する被害女性の力強さを知り、被害を生み出しそれを温存する日本社会の歪みに対して「自分にできることはなにか」を考えさせられます。





Book3

外国人労働者をどう受け入れるか：「安い労働力」から「戦力」へ

著者：NHK取材班著

出版：NHK出版, 2017.8 (NHK出版新書, 525)

コメント：2006年から日本社会における「貧困・格差問題」をテーマに取材を続けてきたNHK取材班が、その取材のなかで見出した「ワーキングプア」と「外国人労働者」の連続性や共通性、「外国人労働者」のさらなる脆弱性についてまとめ、書籍化したものです。会社は「働く場所」ですが、日本で安心して働いてもらうためには、仕事をしてもらって終わりではなく、同居する家族の暮らしも支え、子どもたちの教育も支えていく必要があります。労働の側面だけでなく、共生社会とはなにかについて問題提起をしています。



Book4

新移民時代：外国人労働者と共に生きる社会へ

著者：西日本新聞社編

出版：明石書店, 2017.11

コメント：2016年12月から西日本新聞で連載されたキャンペーン報道「新移民時代」を再構成のうえ書籍化したものです。アジア諸国から留学生や技能実習生として来日した外国籍の人々が、農業や製造業、建築業、飲食業、介護等の現場を支えている状況が具体的に取り上げられおり、外国籍の人々なしでは日本社会がもはや成り立たないことや、彼ら・彼女たちとの共生のあり方について議論されています。

